

ITU-R JTG4-5-6-7第3回及び第4回会合の結果概要について (1/3)

JTG4-5-6-7概要

WRC-12(2012年1月開催)で決定されたWRC-15議題1.1^(※1)及び1.2^(※2)の検討を行うITU-Rに設置された組織。IMT(IMT-2000及びIMT-Advanced)への今後の追加周波数特定等に向けて、SG4(衛星)、SG5(地上)、SG6(放送)、SG7(科学)の各関係者が合同で議論。(JTG: Joint Task Group)

第1回会合を2012年7月に開催し、候補周波数帯における共用検討・CPMテキスト案を作成し、全6回で終了予定。(2014年7月末予定)

※1 IMTへの追加周波数特定に向けた検討

※2 欧州、アフリカ地域における700MHz帯の移動業務への分配検討

(1) 第3回会合

期間等

- 期 間 : 平成25年7月22日(月)～31日(水)
- 場 所 : 南アフリカ(イーストロンドン)
- 出席者 : 各国電気通信主管庁、標準化機関、電気通信事業者、放送事業者、メーカー、研究機関など、86の国・機関から約280名が参加。
日本からはNTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、イーアクセス、JAXA、NHK、ARIB、総務省から16名が参加。



会合風景

主な結果

【議題1.1、議題1.2】

放送業務と移動業務の共用・両立性検討に関して、我が国及びISDB-T採用国(中南米・アフリカ等)の地上デジタル放送の保護を目的に、日本からISDB-Tの技術的パラメータ及びLTEとの混信保護比等の共用条件を提案。共用検討に必要な技術的パラメータとして議長レポートに添付され、次回以降検討を継続する予定。

ITU-R JTG4-5-6-7第3回及び第4回会合の結果概要について (2/3)

(2) 第4回会合

期間等

- 期 間 : 平成25年10月17日(木)～25日(金)
- 場 所 : スイス(ジュネーブ)ITU本部
- 出席者 : 各国電気通信主管庁、標準化機関、電気通信事業者、放送事業者、メーカー、研究機関など、124の国・機関から約430名が参加。
日本からはNTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、イーアクセス、JAXA、NHK、ARIB、総務省から16名が参加。



会合風景

主な結果

【議題1.1関連】

- 放送業務と移動業務の共用・両立性検討に関して、我が国及びISDB-T採用国(中南米・アフリカ等)の地上デジタル放送の保護を目的に、日本から特定の地上デジタル放送方式によらない、IMTとの共用検討の方法の適用性を提案した。一方、他の地上デジタル放送方式(DVB-T/-T2及びATSC)とIMTとの詳細検討結果が入力され、それらが議長レポートに添付された。ISDB-Tに関してもIMTとの詳細検討結果の入力が期待され、次回会合で検討を継続、取りまとめを行う予定。
- 現段階で候補周波数帯をCPMテキストに含めることについては、イランから反対意見が出される等、現時点におけるCPMテキストにおける候補周波数帯の記載の仕方について長時間にわたる議論が実施されたが合意に至らなかった。最終的には、現時点においては議題1.1関連の各国・機関からの寄書のコメント表(※)を参照することとなった。

※ 今会合において、我が国地上デジタル放送保護を目的に、日本におけるUHF帯における放送とIMTの利用状況及び共用可能性に関する情報提供を行い、当該内容が検討周波数に関する当該表に記載された。

主な結果(続き)

【議題1.2関連】

- 第一地域のIMTと地上デジタル放送等との周波数共用条件の検討において、各国からの提案に基づき、検討結果が取りまとめられた。次回会合まで検討結果の収集を継続し、取りまとめ終了予定。
- また、議題1.1のGE06地域(第一地域)での470-694MHz帯におけるIMTと地上デジタル放送等との周波数共用条件の検討をSWG2-2(議題1.2のIMTと放送の共用・両立性検討グループ)で取り扱うこととなり、次回会合で検討結果の収集を行い、取りまとめ終了予定。

<参考> WP5Dから提出されている候補周波数帯と我が国が提案している周波数帯

| | | | | | | | | |
|--------------------|-------------------|-------------------|-------------------------|---------------------|---------------------|-------------------------------------------------------------|---------------------|---------------------|
| WP5Dから提出されている候補周波数 | 410MHz ～430MHz | 470MHz ～790MHz | 1000MHz ～1700MHz | 2025MHz ～2110MHz | 2200MHz ～2290MHz | 2700MHz ～ 5000MHz | 5350MHz ～5470MHz | 5850MHz ～6425MHz |
| 我が国が提案している周波数 | | | 1427.9MHz ～1510.9MHz | | | 3400MHz ～ 3600MHz 3600MHz ～ 4200MHz 4400MHz ～ 4900MHz | | |

今後のスケジュール(予定)

- ・ 第5回会合: 2014年 2/20-28 スイス(ジュネーブ)(予定)
- ・ 第6回会合: 2014年 7/21-31 スイス(ジュネーブ)(予定) <全6回で終了>

3

WRC-15 議題1.1及び1.2について

参考1

議題1.1

IMT及び他のモバイルブロードバンドアプリケーションの周波数事項に関する議題

- ✓ 移動通信分野におけるサービスの多様化・高度化及びトラフィックの増大等に伴う周波数のひっ迫状況に対応するため、IMTへのさらなる周波数の追加特定を目指し、WRC-12で我が国を含む世界各国から提案があり議題化。
- ✓ 決議233(WRC-12)では、IMT及び他のモバイルブロードバンドへの周波数追加要求及び候補周波数帯についてITU-Rへ研究要請することを決議している。
- ✓ また、決議807(WRC-12)において、WRC-15議題1.1として、決議233に従い、移動業務への追加周波数一次分配及びIMTへの追加周波数特定を行うこととされている。
- ✓ CPM15-1においてこの議題の検討の責任グループはJTG4-5-6-7とされているが、**WP5D及び関連するWPは2013年7月末を目途に、IMTに適した周波数範囲、将来必要となる周波数帯域幅等を当該JTGに入力することが要請されている。**

※ WRC-07(2007年開催)で、我が国については、450-470MHz、698-806MHz、2300-2400MHz及び3400-3600MHzの周波数が、地上系のIMT用に追加特定。

議題1.2

694-790MHz帯における移動業務への周波数分配に向けた議題(第1地域)

- ✓ WRC-12において、第1地域(欧州、アフリカ等)の694-790MHz帯を移動業務へ分配する提案が、アフリカ諸国を中心に多数あったことから議題化。
- ✓ 決議232(WRC-12)では、2015年に開催予定のWRC-15後に、第1地域において694-790MHz帯を移動業務に一次分配及びIMTへ特定することとし、他業務との共用について研究することを決議している。
- ✓ また、決議807(WRC-12)において、WRC-15議題1.2として、決議232に従い、第1地域における移動業務による694-790MHz帯の利用に関するITU-Rの研究結果を審議し、適切な対応を講じることとされている。
- ✓ 当該帯域は第1地域において放送業務等に一次分配されており、放送業務と移動業務との共用検討が主な課題となる。
- ✓ CPM15-1においてこの議題の検討の責任グループはJTG4-5-6-7とされているが、**WP5D、WP6A及び関連するWPは2012年12月末までに所要周波数帯域幅等を当該JTGに入力することが要請されている。**

4

WRC-15議題1.1における検討スケジュール

参考2

